

## 10. Gazprom

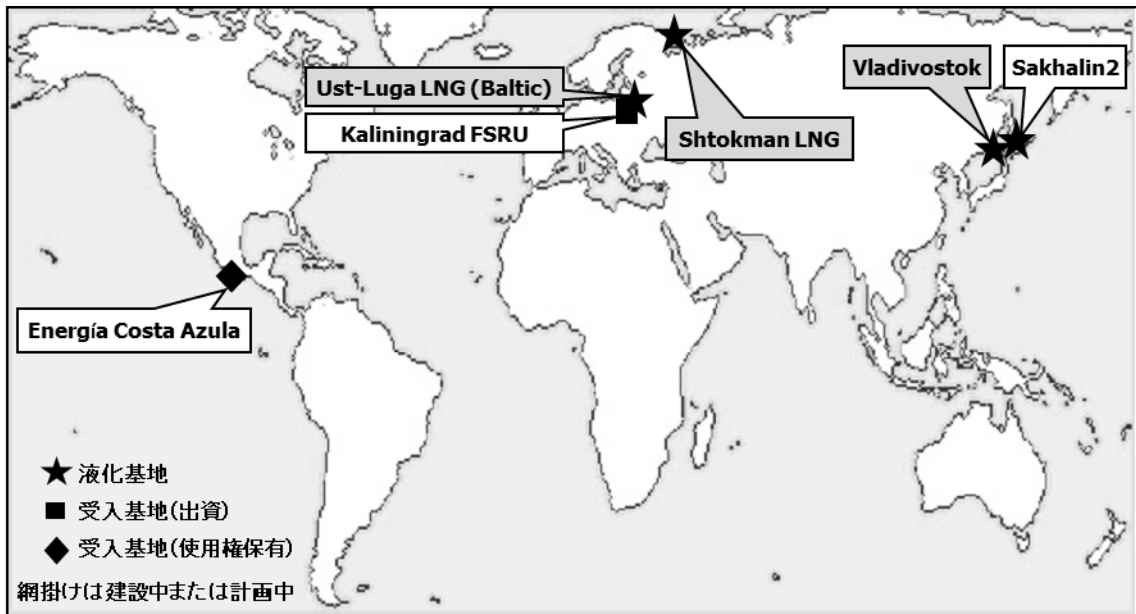
### (1) 企業概要

Gazprom は、ロシア国内において天然ガスの探鉱、開発、生産、パイプライン輸送、輸出まで幅広く事業展開する同国最大級の企業である。1993 年に株式会社化されたが、ロシア政府は 2019 年末時点で 38.37%の株式を保有する筆頭株主であり、他株主であるロシア政府系の Rosneftegaz (10.97%)、Rosgazifikatsiya (0.89%) 保有株式を合算するとロシア政府が Gazprom 株式の 50.23%を支配する。

Gazprom グループの 2019 年末時点の天然ガス埋蔵量は 34,899 Bcm、石油・ガスコンデンセート埋蔵量は 36 億トンである。同年のガス生産量は 501.2 Bcm (前年比 0.5%増加) で、ガス輸出量が 232.4 Bcm (前年比 4.5%減少)、LNG 輸出量は 378 万トン (5.04 Bcm、前年比 2.7%減少) となっている。

ガス事業以外では、2005 年 9 月に石油開発会社の Sibneft を吸収し、Gazprom Neft に統合して石油事業への進出を果たした。また、国内電力企業の持株会社である UES (Unified Energy System) への出資を通じて、ロシア国内の発電設備容量の 16%にあたる 38.75 GW の発電設備容量を有している。

Gazprom の LNG 液化・受入基地



### (2) LNG 関連

LNG プロジェクトについては、既存プロジェクトが順調に稼働している一方で、低油価に伴う経済性の悪化や原料ガス確保、米国の制裁の影響もあり、新規計画は遅延している。

Sakhalin 2 について、Gazprom が出資する Sakhalin Energy が主導する Sakhalin 2 液

#### IV. 主要企業別 LNG 事業動向

化基地の第3トレイン（約500万トン/年）増設をRoyal Dutch Shell、三井物産、三菱商事と検討中であり、FEEDも完了している。最終投資決定（FID）は当初2017年を計画していたが、2020年9月時点でFIDに関する情報は開示されていない。

Vladivostok LNGについて、同計画は中国向けパイプラインPower of Siberiaの当初計画の終点に位置する。当初2018年の生産開始を計画していたが、同パイプラインを通じた中国向け原料ガスの優先確保や経済性等の要因で進展は見られない。

Ust-Luga LNG（Baltic LNG）について、2018年末、ShellとBaltic LNGプロジェクトの技術的コンセプト枠組協定を締結したが、2019年3月、Ust-Luga LNGプロジェクトとBaltic LNG・ガス処理設備の完全統合へコンセプトを変更し、RusGasDobychaをパートナーとして発表した。2019年4月、Shellは共同開発を推進していたBaltic LNGへの参加を中止すると発表した。2020年8月、ロシア国有開発銀行VEB.RF（ВЭБ.РФ）が、同統合プロジェクト向けに550億ルーブル（7.41億米ドル）の融資を行うことを明らかにした。ガス処理設備は容量45Bcm/年、液化設備は年間1300万トンで計画されている。LNG出荷開始は2023年第4四半期に計画されている。

#### Gazpromが出資するLNGプロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
ロシア	Sakhalin 2 (Train 1, 2)	960	2009年	Gazprom 50%+1株, Shell 27.5%-1株, 三井物産 12.5%, 三菱商事 10%	アジア
	(Train 3)	約500	計画中		N.A.
	Vladivostok LNG	150	計画中	Gazprom	アジア
	Ust-Luga LNG (Baltic)	1,300	2023以降 計画中)	Gazprom, RusGas Dobycha	N.A.
	Shtokman LNG	3,000	計画中	Shtokman Development (Gazprom 100%)	N.A.

#### Gazpromがキャパシティ使用权を保有する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 万トン/年)	受入開始
メキシコ	Energía Costa Azul, Baja California	Sempra Energy	760	2008年
ロシア カリニングラード)	Kaliningrad (FSRU)	Gazprom	200	2019年

#### (3) 今後の戦略

Gazpromは欧州域内におけるガス生産の低下を見計らい、ガスの輸出をさらに拡大させる方針であり、欧州向けパイプライン建設に注力している。

Nord Stream 2について、ロシア沿岸部とドイツをバルト海経由で結ぶ既存のNord Streamパイプライン2本に沿って、3本目と4本目のパイプライン（輸送能力27.5Bcm/年×2本、1,220km）を敷設するプロジェクトである。2017年4月、Gazprom子会社Nord

Stream 2 AG は ENGIE、OMV、Royal Dutch Shell、Uniper、Wintershall と長期のファイナンス契約を締結し、欧州エネルギー企業 5 社がプロジェクト全費用 50%を負担することで合意した。関連する国々の領海通過について、審査が長引いているデンマーク以外は全て許可済みのため、2019 年 6 月、デンマーク領海を通過する計画案を撤回し、同国排他的経済水域を通過する残り 2 つの計画を申請しているが、本審査がいつ完了するかは不明となっている。完工予定について、当初 2019 年末にウクライナ Naftogas と欧州向け現行通過輸送契約が満了する前に完成する予定だったが、2020 年に後ろ倒しとなっている。

Turk Stream について、ロシアとトルコを黒海海底経由で結ぶパイプライン（輸送能力 15.75 Bcm/年×2 本、930km）を敷設するプロジェクトである。黒海を通過する沖合パイプライン 2 本の内、1 本目はトルコ向け、2 本目はトルコ近隣の南欧・南東欧向けとなる。トルコ向けは 2020 年 1 月に稼働を開始した。

Power of Siberia について、ロシア産ガスを中国向けに供給するプロジェクトであり、サハ共和国のガス田（チャヤンダ）とイルクーツク州のガス田（コヴィクタ）からのガスを供給する。2019 年 10 月、チャヤンダ・ガス田からの注入を開始し、2019 年 12 月にパイプラインの稼働を開始した。コヴィクタ・ガス田からの注入は 2023 年開始予定である。

ロシアからモンゴル経由で中国西部にガスを供給するプロジェクトである Power of Siberia 2 については、2019 年 12 月、ガス供給の事業性評価実施に向けて、モンゴル政府と覚書（MOU）を締結した。2020 年 3 月、モンゴル経由中国西部への輸送能力 50 Bcm/年として、投資前段階・設計・調査作業に入る計画を発表した。2020 年 8 月、ガスパイプライン建設と運用の実現可能性調査（F/S）を実施することを目的として、モンゴルでの特別目的会社を設立する覚書が署名された。

中国市場について、中国石油天然ガス集团公司（CNPC）と戦略的パートナーを構築し、対中ビジネスを展開している。Gazprom と CNPC は 2014 年 5 月、上述の東シベリアのガス田と黒竜江省を結ぶ東方ルート（Power of Siberia、3,000 km 超）経由で、38 Bcm/年の天然ガスを 30 年間に亘り供給する売買契約書を締結した。両社はさらに 2017 年 12 月にロシア極東でのガス供給について HoA を締結した。2020 年 3 月、欧州委員会も、中国での Sinopec Gas, Novatek Asia, Gazprombank Asset Management 間の合弁事業設立を承認し、中露国境のアムール州におけるガスケミ事業へのプロファイを後押しする形となった。

LNG プロジェクトについて、遅延する新規 LNG プロジェクト計画の戦略見直しを迫られる一方で、小規模 LNG 販売を推進している。2017 年 9 月、三井物産と日本における小規模・中規模 LNG の生産・輸送・販売、並びに日本海における LNG バンカリング協力に関する包括提携を締結している。2019 年 2 月、パキスタン Inter State Gas Systems と、中東から南アジア諸国向けのガス供給の事業化調査に向けた覚書（MOU）を締結した。2019 年 11 月、モンゴル向けにロシア初の小規模 LNG カーゴを供給した。ヤクーツクで初の鉄道 LNG コンテナ 36 トンのカーゴが積み込まれ、ウランバートルに到着した。